女性医師
就業支援
相談窓口

相談員が聞き歩き

「いばらきで活躍する女性医師インタビュー」

リレー

Vol.5

白十字総合病院　リウマチ内科

柳町麻衣美（やなぎまち まいみ）先生

両立の心得

パートナーと家事・育児を共に行うことで
お互いの大変さを理解して感謝する。
何事にも自分なりの期限を決めて全力投球。

≪略歴≫

2003年 山形大学卒業
東京慈恵医大にて研修
リウマチ膠原病内科入局
総合内科専門医取得
リウマチ専門医取得
2013年 リウマチ内科にて学位取得
2015年4月より白十字総合病院にて非常勤勤務
2016年4月より同病院で常勤医として勤務

医師を志した理由、リウマチ内科を選択した理由を教えてください

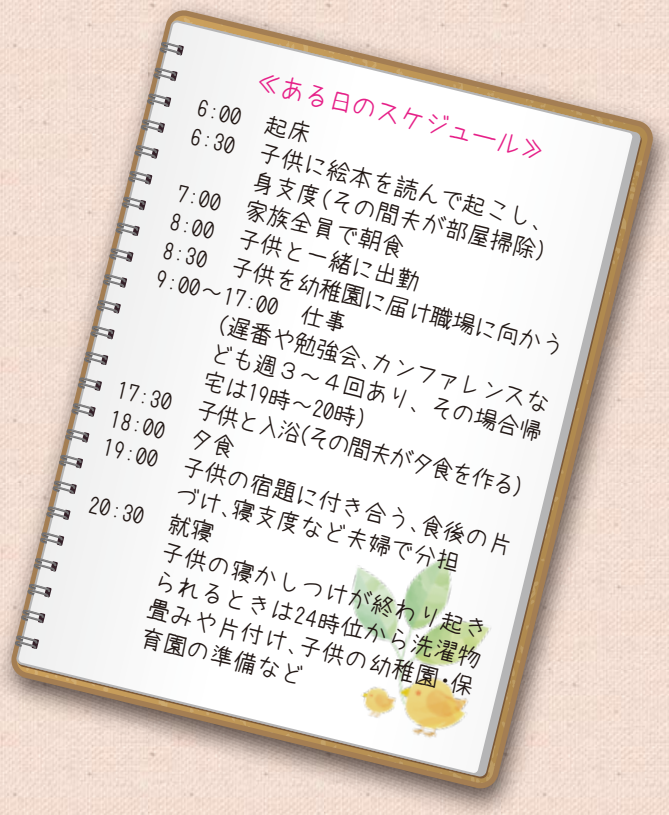
私が子どものころから、祖父、叔母、いとこが医師として働く姿を見ながら育ちましたので自ずと医師になろうという気持ちを抱いていました。

リウマチ内科を選択した理由は、患者さんと長く付き合っていきたいと考えたからです。様々な検査と時間を費やしても確定診断に至らず、困っている患者さんや家族に寄り添いながら原因を精査し、結果が出た時には大変嬉しく思います。その後の治療で症状が改善され、感謝の言葉をいただくことが医師の仕事としてのやりがいに通じています。

ロールモデルはどなたですか？

医師を志すきっかけとなった叔母といとこです。叔母が３人、いとこは４人の子育てを経験しながら医師の仕事を続けています。二人の夫も医師で大学病院勤務そのうえ単身赴任していたので、家事育児は全て自らの役目です。頼れる人や支援サービスを上手に活用していましたね。専任のシッターさんは欠かせなかったようです。現在叔母は80歳を超えますが現役で診療しています。

私も、叔母たちの病院で共に働くことを期待されていたので、茨城への移住の決断には大変驚かれて、「子育てに追われて仕事を辞めたらただではおかないわよ」と激励されました。


≪ある日のスケジュール≫

6:00　起床
6:30　子供に絵本を読んで起こし、身支度(その間夫が部屋掃除)
7:00　家族全員で朝食
8:00　子供と一緒に出勤
8:30　子供を幼稚園に届け職場に向かう
9:00～17:00　仕事
(遅番や勉強会、カンファレンスなども週３～４回あり、その場合帰宅は19時～20時)
17:30　子供と入浴(その間夫が夕食を作る)
18:00　夕食
19:00　子供の宿題に付き合う、食後の片づけ、寝支度など夫婦で分担
20:30　就寝
子供の寝かしつけが終わり起きられるときは24時位から洗濯物畳みや片付け、子供の幼稚園・保育園の準備など

茨城に移り住んだきっかけは？

茨城県潮来市出身の夫が「カエルの鳴き声と気持ちいい風の吹く茨城へ帰ろう」と都心からのＵターンを決意したのがきっかけです。夫も医師です。

最初は戸惑いました。まず、子どもたちの生活や教育環境が変わることを心配しました。次に、自分の仕事のことです。当時、２人の子を出産・育児をしながら週に２～３回の非常勤を４年間続けていて、このままでは技術的にも不安だと感じていました。

そこで、夫の故郷茨城へのＵターンを、私の転機とも考えて完全復帰の目標としました。

まず、非常勤で都内から通勤しながら子育て環境を整え、昨年11月からは茨城県鹿嶋市に移り住み、今年の４月からフルタイムで常勤医として働いています。

柳町夫妻のワークライフについて教えて下さい

男が女がというより、現在の私たちの状況に合った働き方と生活を送っています。

夫は診療所に勤務する内科医です。

子どもたちは５才と２才で、それぞれ幼稚園と保育園に通っています。

共働きであってどちらかが働き詰めで無理を重ねながらいるのなら、長い人生の中で一時的に休んでもらうのもいいのではないかと思います。夫も育児を主として担ってみて大変さを痛感しています。男性の育児休業は学ぶところが多いそうですので、ぜひお勧めです。夫が家事手伝いでなく、家事全体の流れが把握できていると本当に助かります。洗濯物を干して終わりではなくたたみしまうまでの仕事、料理を作って終わりではなく片づけ、食器洗いまでが家事ですよね。お互いの仕事の大変さが分かるので感謝できるのもよいと思います。

私が通常勤務の平日は時短勤務の夫が子供の迎え、夕食作り、入浴をしてくれています。夕食からは私が加わり、子どもの寝かしつけ、夕食の片づけを分担で行います。私が当直の時には、これを全て夫が担ってくれています。

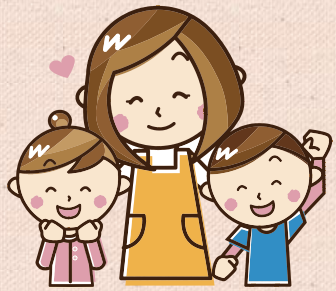
今後どのような子育てサポートが必要と感じますか？

子どもの発熱時や急なお迎えも時間の融通をつけて夫が担っています。時には夫の両親の手も借りていますが、病院への受診など祖父母には負担が大きいこともあり夫が仕事を休まざるを得ない状況です。

今は育児を主として担っている夫が今後仕事を増やしていくのには、緊急に対応していただける人手が必要で、これが今後の課題です。突発的な事に対応してくれるシッターや家事サービスがあると本当に助かります。

現在は習い事の送迎や計画的な行事の時はファミリーサポートセンターにお願いしています。これからも長いおつきあいになると思います。費用負担などのサポートも助かると思います。以前の勤務地ではシッター補助券などの交付が職場からあり、復職のきっかけになりました。

子どもは大切な存在です。ですが職場を頻繁に抜けることになると、重要な仕事を任せてもらえなくなるのは当然と考えています。仕事に対するやりがいの継続を保てるように自ら工夫しなければなりません。



医師に限らず共働きには、家族プラス１のサポートがあると心強いと思っています。

とにかく今は、我が家のお手伝いをしていただけるサポーターさん募集中です！！

茨城・鹿行地域での暮らしで感じることは？

鹿行地域には保守的なイメージを抱いていましたが、地域の方や、患者さんと過ごすうちに、ここに暮らす皆さんが自信に満ち溢れたいい人生を送っているのではないかと感じています。

初診で重症の患者さんが多いことには驚きました。もともと農業や漁業など基礎体

茨城県公式観光情報サイト
観光いばらき より
www.ibarakiguide.jp

力のある方々が多いのでしょうね。我慢に我慢を重ねて、もうだめだと思った時に病院に来られるのだと思います。最期まで家で家族と過ごしたいという患者さんの強い思いも感じられます。

ご年配の方を診る時、主治医だと説明しても医者だと認識していただけないことが時折あります。この地域に女性医師が少ないこともあるのかもしれませんが、私たち女性医師が働き続けなければ、居場所がなくなってしまうということですよね。

都市部に比べると生活の不便さはありますが、食が豊かでのびのびとしていいところだと思います。教育や交通などを充実させて、子育て世代に魅了ある地域になってほしいと思います。

地域医療についても積極的に学んでいます。勤務先のサポートを受けて学会や地域の勉強会に参加したり、地域の先生方と積極的にお会いしてお話しを伺っています。

出産・育児と働き方について

大学の医局にいたころ、医学論文を書き上げるまでは、結婚はいいが子どもは生むな、と言われていたほど厳しかったことを思い出します。当時は“しんどいな”と思いましたが今振り返るとその通りかもしれません。若いうちでないと学べないことがたくさんあるので、その機会を逸してしまうのはもったいないことだと思うからです。だからと言って、年齢を重ねてからの出産になればリスクを伴いますから、非常に難しい選択ですよね。育児への万全なサポートが見込めれば、さらにキャリア継続の道幅が広がると思います。

何事にも自分なりの期限を決めて、全力投球していくと後悔しないと思います。

研修医・医学生の皆さんへメッセージをお願いします

自分の興味のある分野を極める楽しさを味わってみて下さい。

また、研修医時代に学んだ他科での知識は後になって役に立つことが沢山あります。

茨城県医師会
女性医師就業支援相談窓口

Facebookもチェック
fb.me/ibaraki.dr.women
https://www.facebook.com/ibaraki.dr.women/

029-241-7467　0120-107-467
029-241-7468　i-dr.support@au.wakwak.com
http://www.ibaraki.med.or.jp/women/